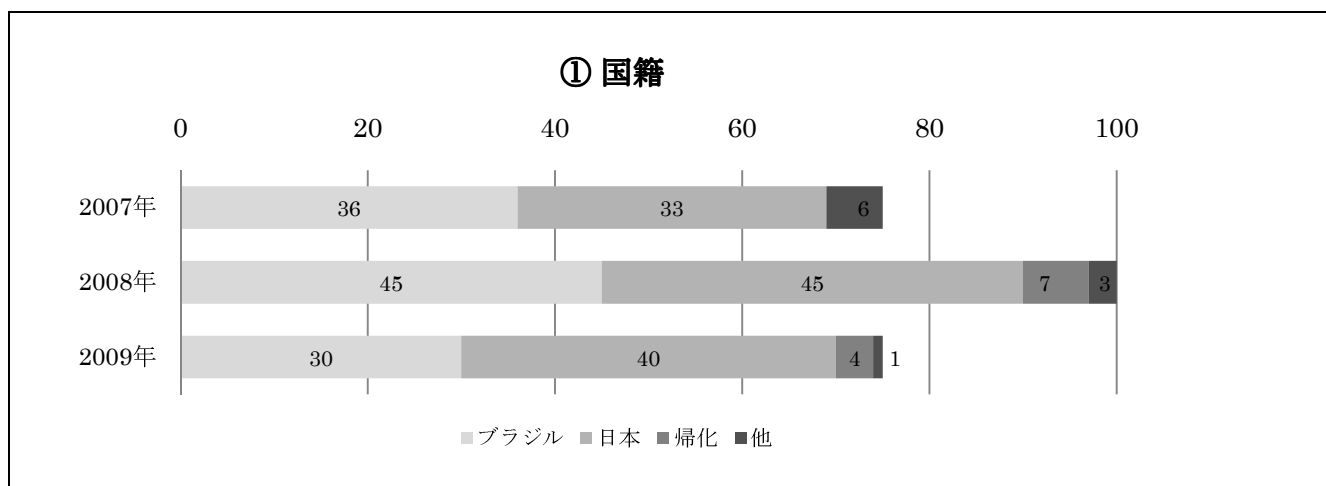


## 第 51 回全伯日本語教師合同研修会受講生調査

調査対象：2009 年合同研修会受講者（スタッフ含）（実数 75 名 回答 75 名 回答率 100%）

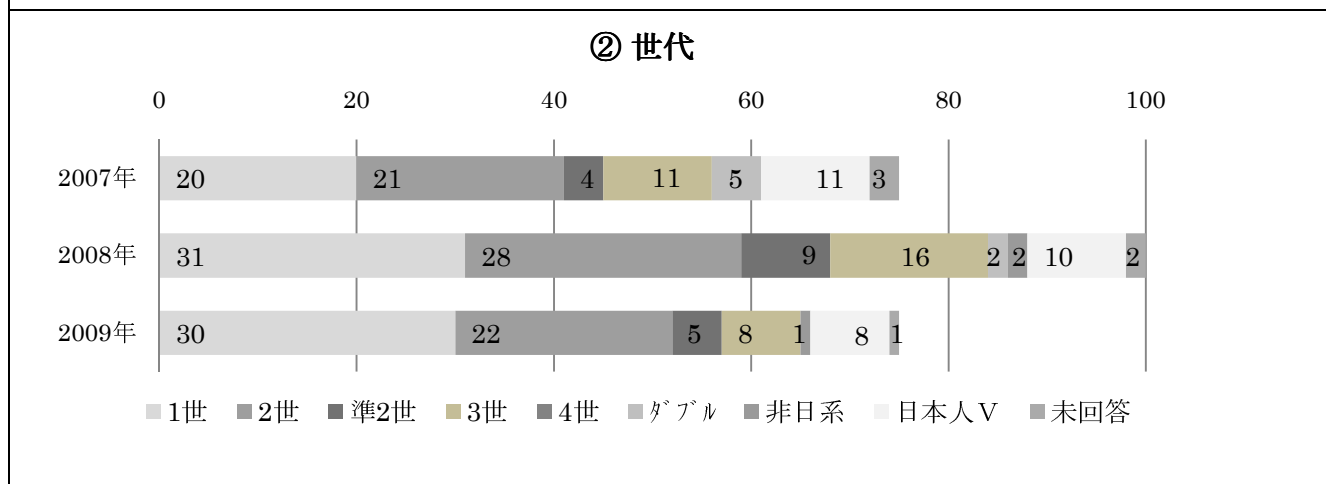
調査目的：受講生のデータをもとに、研修会の方向性を検討、充実を図る。

調査結果：以下に調査結果をグラフにし、特徴を記した。但し、調査対象が研修会参加者に限られているので、これが他の教師のものとは一致するものではないことを付け加えておく。



\* 昨年はボリビアからの参加者がいたが、今年は国外からの参加はゼロだった。

\* 2007 年は、日本国籍を持つベテランの教師の久々の参加で、日本国籍者が多かった。

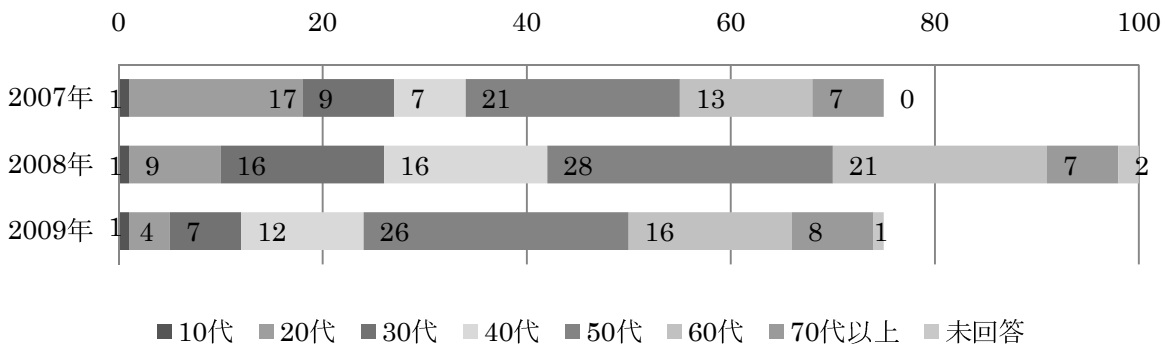


\* 2009 年は 2008 年に比べ、2 世、3 世のブラジル国籍を持つ教師が少なかった。既存の練習問題やテスト使用で「作成」には関わっていないため、若い 2 世、3 世の教師は関心が薄いのかと思われる。

\* 非日系教師の参加比率はこの 3 年で横ばいである。

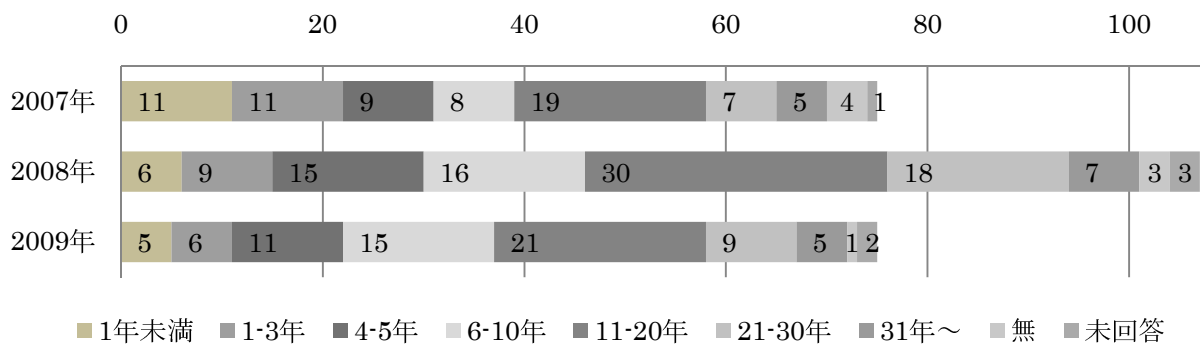
\* また、昨年同様の参加比率で、シニアや青年ボランティアの日本語教育への関心と意欲の高さが見てとれる。今回行ったワークショップのテスト作成「評価の方法」への関心がうかがえる。

### ③ 年齢



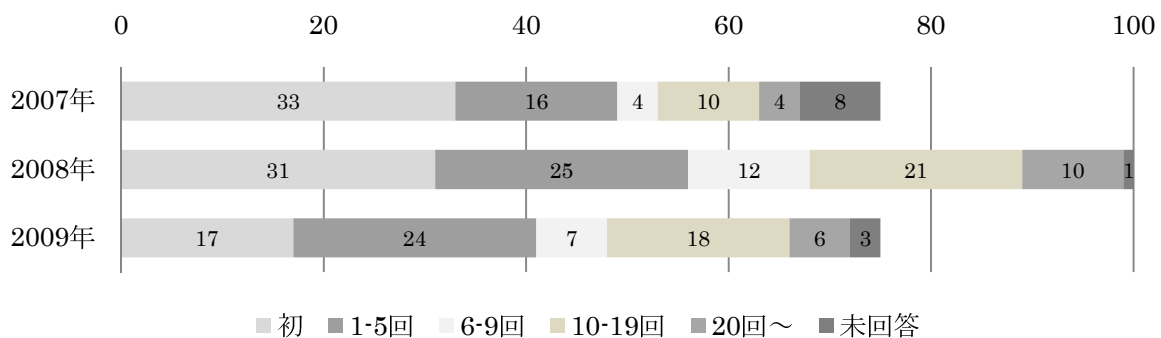
- \* 40代以上の参加者が半数以上を占めていた。
- \* 学校において、評価にあたるベテラン中堅層、または、地域のリーダーが目立った。

### ④ 日本語教師経験年数



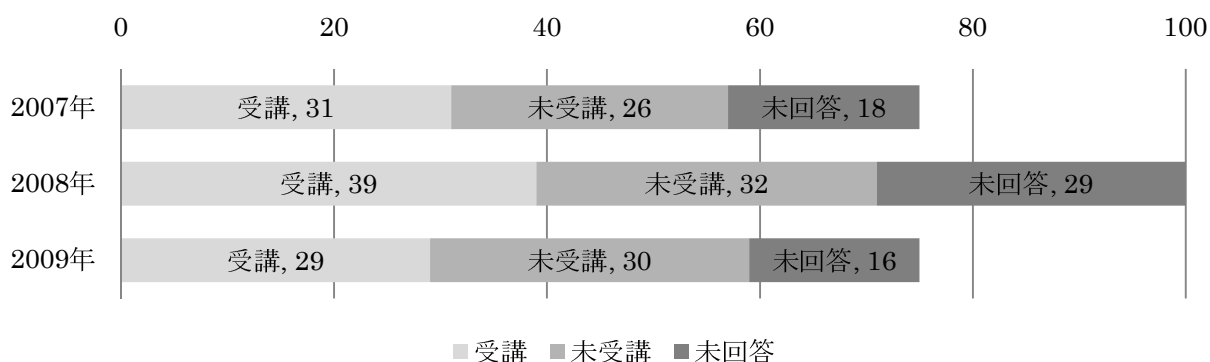
- \* 2007年,2008年に比べ、10年以上の経験豊富な教師の参加が多かった。
- \* ワークショップで行った「評価」に携わっている教師が多い。

### ⑤ 合同研修会参加経験



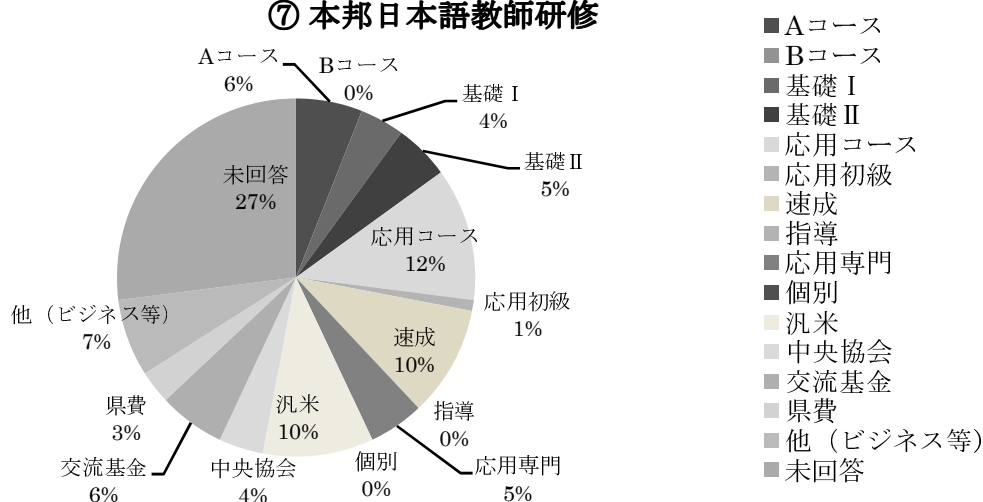
- \* 初参加の比率が、2007,2008年に比べ少なかった。「評価」へのハードルの高さがうかがえる。

### ⑥ 教師養成講座



\* 参加者の 38%が教師養成講座の受講者である。養成講座を終えたばかりの初参加も毎年多くあり、勉強会、研修会に積極的に参加しており、将来的には訪日研修を望んでおり、訪日研修発表への関心も高い。未受講者は 15 年以上のベテラン一世に多い。

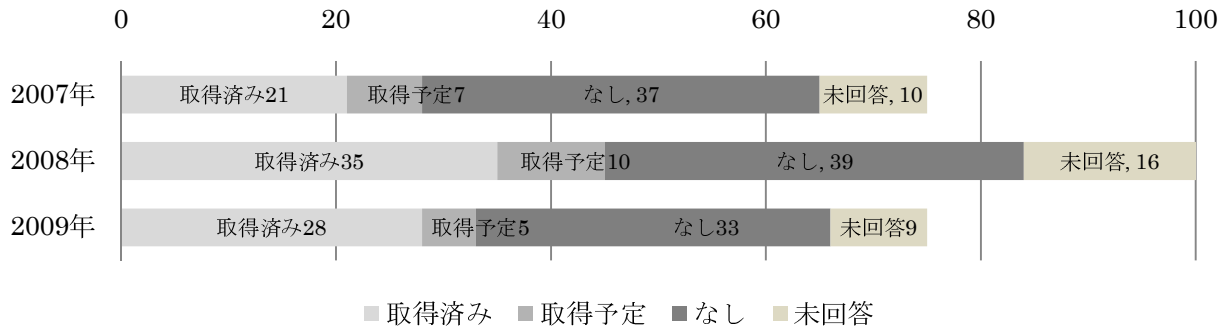
### ⑦ 本邦日本語教師研修



\* 参加者の大半が本邦日本語教師研修経験者である。各自の日本語レベル、対象学習者とそのレベルなどに合わせて再研修をしている参加者も多く、複数回答となっている。

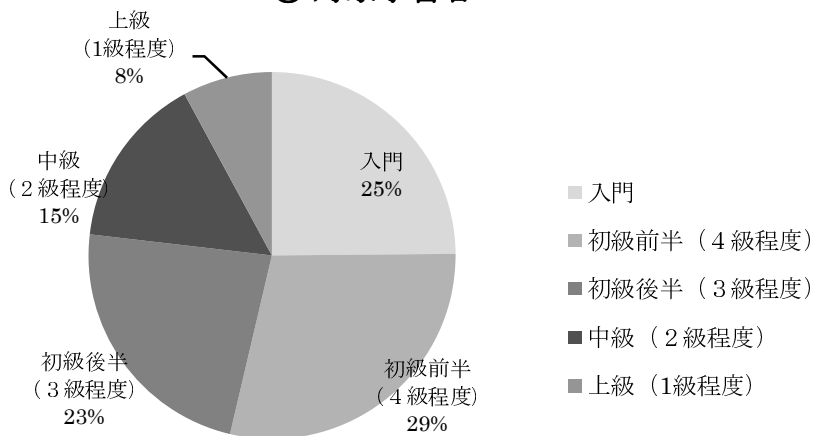
\* 日本での研修に対する関心の深さが「訪日研修発表」に表れ、研修 OB の地域における波及も行われており、さらなる向上心が研修会への参加という形にもなっている。

### ⑧ 教師認定書



\* 教師認定書の取得状況については、取得済み及び取得予定が 33 名、未回答及び取得なしは 42 名だった。参加者からシニア、青年ボランティアを除くと、半数以上が取得済みである。15 年以上のベテラン、訪日研修経験者、養成講座受講者が対象となっている。

### ⑨ 対象学習者レベル



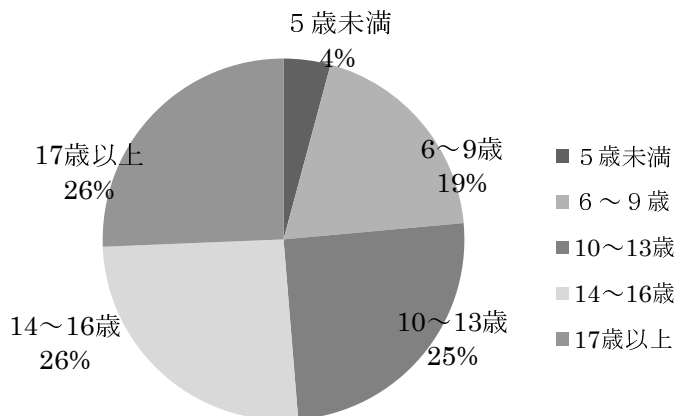
\* 初級前半の目安を能力試験 4 級、後半を 3 級、中級を 2 級、上級を 1 級とした。

\* 初級前半、後半合わせて 52% と、約半数を占めている。

\* 一人の教師が全レベルの学習指導をしているところが多い。

しかし、初級後半から中級までが年々増えてきており、初級止まりという南米の日本語教育に関する定説を覆す傾向にある。また、研修会での希望項目にも表れている。

### ⑩ 対象学習者年齢

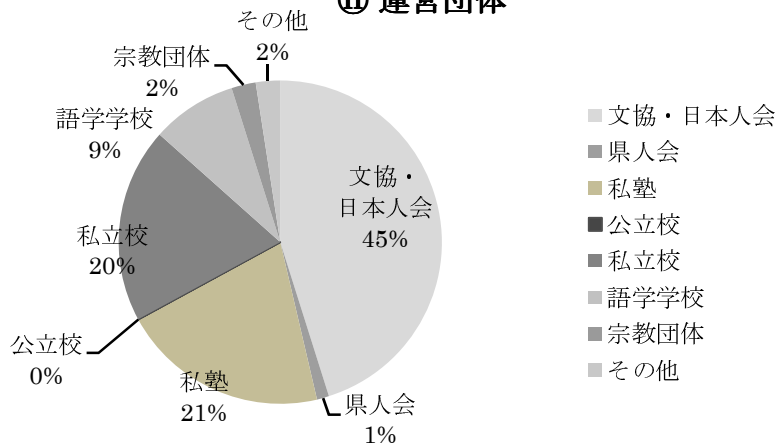


\* 対象学習者年齢は一人の教師が複数のクラスを担当する場合が多いため、複数回答である。

\* 今回は児童に対して継承日本語教育を行う日系団体がバックにある学校からの参加者が多く、したがって10代の生徒が大半をしめたことになる。

しかし、実際には全国的に成人学習者が増加の一途をたどっている。

### ⑪ 運営団体



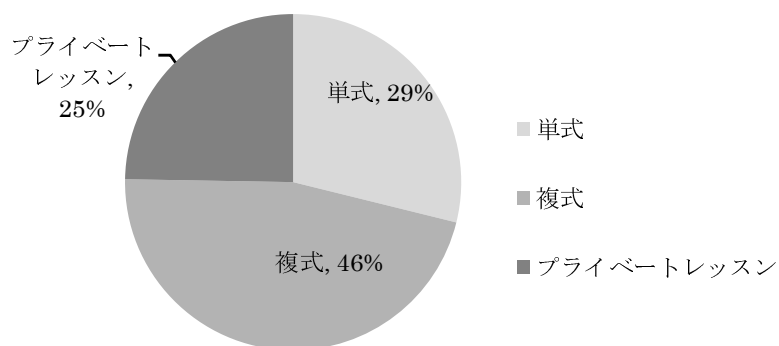
\* 文協、日本人会関係などの日系団体が運営する学校からの参加が半数近くいる。

\* 複数の学校で教えている教師もいるため、複数回答となっている。

\* 5年前に50%近くあった私塾が急激に減少した。

\* 研修会参加に対する日系団体の支援や理解がみられる。

### ⑫ 授業形態

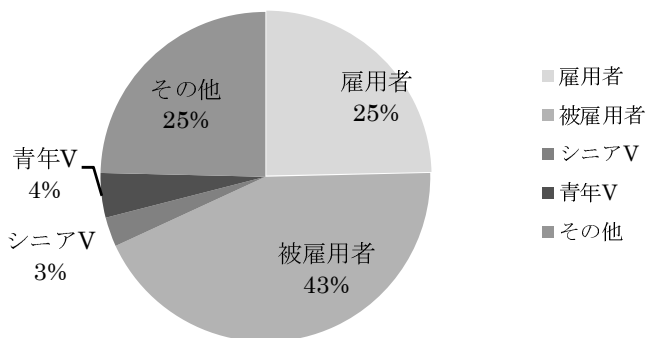


\* 授業形態は昨年からあまり変化がなく依然として小規模な私塾や学校などでの複式授業が多く、全体の半数近くに達する。

\* 複数の学校で教えている教師もいるため、複数回答となっている。

\* 複式学習というより、個別学習といった授業形式は小規模の学校に多くみられる。

### ⑬ 立場



\* 雇用者とは、私塾の経営者ということである。

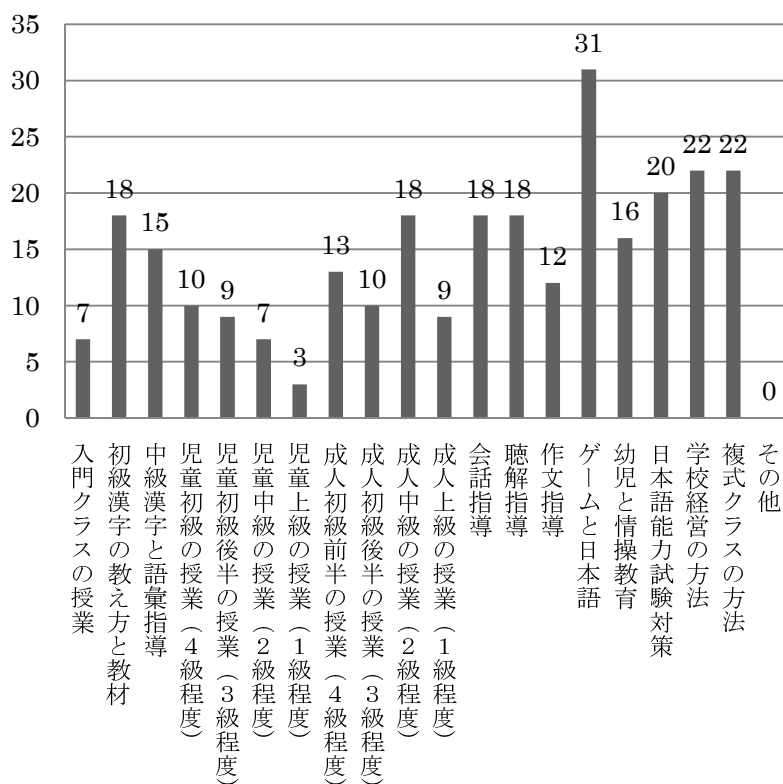
\* 日系団体経営の学校に雇用されている参加者が被雇用者の大半を占める。

\* プライベートレッスンをを行っている教師や、授業には直接関与しない役員や図書係がその他に含まれている。

### 【実践報告について】

調査対象：2009年合同研修会受講者（スタッフ除く）（実数名 65名 回答 54名 回答率 83%）

### 聞いてみたい実践発表



\*依然として、ゲームで学ぶ楽しい教室活動や複式授業に対する関心度が高い。「学校経営の方法」の示す人数は上記アンケート「⑬立場」の雇用者数に相当する。

\*ここ数年見られなかった聴解指導に対する要望が高まっている。

\*2年前から比べると「能力試験対策」に寄せる期待が大きくなっている。

\*10年～20年以上の経験豊かな教師は中上級を担当する場合が多く、「中上級指導」に対する関心が高い。今回の実践発表の影響からか「漢字の教え方」「幼児と情操教育」の実践を望む声が20%になっている。